



**KAKUNOSHIN OHTA**  
**RACE REPORT**

**2023 SUPER GT Rd.2**

2023.05.03-04 FUJI SPEEDWAY

## はじめに

開幕戦から2週間を挟み、ゴールデンウィークに開催されるSGT富士大会を迎えました。岡山大会が終わってからのインターバルでは、鈴鹿にてメーカーテストがあったため、GT500車両の感覚をしっかりと取り戻した状態でサーキットに入ることができました。開幕戦の予選は3位、メーカーテストでは全体トップタイムも出せていたので、まずは予選で高いパフォーマンスを発揮することに集中して公式練習に臨みました。

## 公式練習

走り始めは伊沢選手からスタートし、セッション中盤で交代してセットアップと習熟を進めました。300クラスのトラフィックも多く、順位による純粋な評価は難しいですが、この時点でベストタイムのパフォーマンスは上位にいるとは言えず、予選は難しい戦いになることが予想されました。マシンバランスに関しては、セッションを進めるにつれ改善が見られたので、予選までのインターバルでさらにセットアップを進められるように準備を行いました。

## 予選(Q1担当) 14位

難しい展開になることが予想されたQ1は自分自身の希望もあり、私が務めることになりました。タイヤの温まりに苦労することがわかっていたので、先頭でコースインして最終ラップにアタックを行いました。しかしながら、朝の公式練習に比べて気温が下がったことなどが影響して、タイヤが温まりきらずQ1敗退となってしまいました。チームのおかげでマシンバランスはかなり改善していただけない、悔しい結果ですがロングランでの耐久性に期待しながら、決勝を想定したミーティングを進めました。

## 決勝14位

450kmの決勝レースは14番グリッドから、伊沢選手がスタートドライバーを務めました。予選で温まりに苦労していたので決勝のロングランには期待をしていましたが、思いの外ロングランのペースも上がらず、30周をすぎたところで私に交代した際にはすでにラップダウンになってしまうという苦しい展開でした。そこからチェッカーを受けるまでの2スティントは、それまで履いていたタイヤよりもソフトのものを使用しましたが、そのタイヤのフィーリングはかなり良く、終始上位と変わらないペースで走行できました。早い段階で勝負権を失った形で悔しい結果ですが、ソフトタイヤでのペースを考えれば次戦以降チャンスがあると考えられるポジティブな内容でした。

## おわりに

今回のレースは予選、決勝ともに悔しい結果となりました。テストにおいては、一発のタイムでは常に上位に入っているので特に予選は期待をしていましたが、今回は持ち込んだ本命のタイヤとコンディションがマッチせず終始苦しい週末になってしまいました。しかしながら、前述したようにレースでのペースは次戦に向けて大きく期待できる部分があったので、鈴鹿では上位で争えるように引き続きチームと努力していきたいと思っております。今大会も応援のほど、ありがとうございました。



